

第 1 2 回小樽市中小企業振興会議

【 議事録 】

日時：令和 4 年 1 1 月 2 1 日(月)9:30～10:15

会場：小樽市役所 第 2 委員会室（別館 3 階）

出席者：李会長、近久副会長、井上委員、松田（瓦）委員、栗原委員、大田委員、

松田（さ）委員、齋藤委員、馬場委員、阿部委員、佐々木委員

事務局：産業港湾部長、産業港湾部次長、産業港湾部産業振興課長、

産業港湾部産業振興課主査、産業港湾部産業振興課主事

次第 1：開 会

事務局 本日は、御多用のところ御出席いただき、誠にありがとうございます。ただいまから第 1 2 回「小樽市中小企業振興会議」を開催いたします。本日の会議は、お手元の次第に沿って、概ね 1 時間程度を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。なお、本日、委員の過半数の御出席をいただき、この会議が成立していることを御報告いたします。

次第 2 意見交換

会 長 ちょうど一年前になるのですが、中小企業振興会議として、昨年 1 2 月 2 4 日に市長への答申を行い、その後、若手によるワーキンググループを作り、進めていくこととなりました。ワーキンググループでは、これまで 2 回、8 月と 1 0 月に意見交換を対面で実施したと聞いております。それでは、今後のスケジュールとワーキンググループの意見など、関連がありますので、資料 1 から資料 3 までを事務局から説明をお願いします。

事務局 <資料 1「今後のスケジュール」について説明>

<資料 2「ワーキンググループの意見」について説明>

<資料 3「市の中小企業振興施策」について説明>

会 長 ただいまの説明について、質問等はありませんか。委員お願いします。

委 員 ワーキンググループの議論はどのようなテーマで行ったのですか。

事務局 資料 3 の「工業・企業立地」分野の、「経営基盤の強化と創業の促進」「ネットワークの形成と地場産業の活性化」「地場製品の販路拡大と新たな市場開拓」この部分を今年度のテーマにしております。このテーマは産業振興課の所管で、それについて御意見いただきました。

委 員 ありがとうございます。

会 長 ほかに御質問などありませんか。事務局から説明のあった、今後のスケジュールと来年のワーキンググループの開催予定に対して、ほかに御質問等ありませんか？委員お願いします。

委 員 先程の説明にありました、来年度のワーキンググループのテーマに関して、所管している部署が変わるのですか。

事務局 資料3の太枠、「雇用・労働」と「商業」この部分につきましては、同じ産業港湾部の商業労政課が所管しており、事業の説明を商業労政課で行うことになります。

委 員 ありがとうございます。

会 長 今説明があったところですけども、ある意味横断的な形で進めていこうということですので、かなり幅広く、今まで取り上げられていなかったテーマを含めて、若い人の意見も聴取して、それを反映していこうという狙いです。次回のテーマとして、「雇用・労働」及び「商業」に焦点を絞りたいということだったのですが、これについては何か御意見等ございますか。委員お願いします。

委 員 範囲を広めていくという意味ではよろしいのではないかなと思います。色々な考え方が出てくることは悪いことではないと思います。

会 長 ありがとうございます。それでは委員から、雇用・労働といったところに、何か御意見ですとかアドバイスなどありましたらお願いします。

委 員 雇用・労働という観点からは離れてしまうかもしれないですけど、我々金融機関としては創業の方がターゲットになるものですから、的外れな意見になってしまうかもしれないですけど、今回のワーキンググループのお話や資料を拝見すると、創業者、創業予備群に対するお金の面の支援は充実してきていると思います。総合研究所の調査によりますと、創業するまではお金の面でニーズはあるのですけれども、創業した後はお金の心配よりも稼ぐ力、この資料でいうところの経営力強化、例えば販路拡大したいとか、ホームページを改良したいとか、そういった悩みが色々でてくる。ですから、創業する前の金銭的な支援に加えて、創業した後によろず相談のようなソフトの面での支援も必要になってくるのではないかと思います。

会 長 貴重な御意見ありがとうございます。委員御意見お願いします。

委 員 雇用・労働の件については、コロナが流行する前から、すでに人手不足が始まっていたのですけれども、団体の中でアンケートをすると、その当時、回収した半分の企業が人手不足であるというデータが出ていました。一方で、求人募集を出しても、こないから仕方ないと、半ば諦めも見られます。同じ立場にいる人間からすると、それでは“だめだよ”と思ってしまう、人手不足なのに採用意欲が低いということが企業の中で起きてい

たと今思い出しております。非常に向かい風である人口減少や生産年齢人口の減少だとか、コロナ禍で戦争も始まって、材料やエネルギーが上がって、物価が上がって、人件費も上げないといけないという中で、また人手不足と言い出しました。このところを、もう少し、民間事業者サイドも考えなければいけないと思っていますし、そこに組み込む必要があります。だから、「こういう政策やメニューあるんだ」という発信をするだけでは前進しないと心配しておりまして、そのところを工夫する必要があると思っています。

会 長 ありがとうございます。今委員がおっしゃったように、労働力不足、人手不足が常態化する中で、抜本的な改革が必要だと思いますので、若い人たちのアイデアを吸い上げながら、突破口を見つけるということもワーキンググループの狙いだと思いますし、委員がおっしゃいましたように、ただ単に創業支援をする仕組みをつくるだけではなくて、フォローアップとして、プロモーションしていくとか、ホームページを充実するとか、販路開拓につながるような支援策を模索していかなければならないと思います。最後に、委員お願いします。

委 員 組合は現在 37 社、以前は 60 社近くおりまして、今色々な形で、本州の企業が引き上げたとか、会社が倒産したとかで、組合を脱退した会社もありますが、そのような状況で、市のホームページにもありますように、製造品出荷額の 4 割は銭函地区で、その分人手不足をひしひしと感じている状況です。働き方改革と言いますが、組合は異業種の方ばかりなので、24 時間稼働している工場もあれば、お休みがある企業まで様々です。その中で外国人労働者が銭函地区で非常に増えている状況で、小樽は特に労働人口が少ない中、人手不足で 24 時間工場を稼働するには、外国人の手を借りなければならないという状況は小樽市内でも多いと思います。それに伴いまして、まちの問題や風習が違う問題も存在すると感じています。以前の薬科大学の学生用のアパートや下宿屋に外国人の労働者が住むようになっている状況もございます。雇用の問題に直接関わる問題ではないかもしれませんが、様々な国の人が増えておりますので、その辺の取組もしていただければと思います。

会 長 大変貴重な御意見ありがとうございます。委員がおっしゃったとおり、人口減少、特に生産年齢人口が減少し続ける中で、不足してくる労働力を確保するために外からお招きするというのは、一つの大きな原動力になると思います。外国人労働者が増えることによる課題もでてくる。これは北海道全体の問題でもあると思いますので、ワーキンググループを通して、アイデアや解決策を模索していくことも進歩につながると思います。来年度のワーキンググループのテーマは事務局から御提案のありましたとおり、「雇用・労働」と「商業」としたいと思います。次に資料 4 につきまして、事務局からの御説明をお願いします。

事務局 <資料 4「経営力強化支援事業」について説明>

会 長 今の説明に関しまして、何か御質問等はありませんか。パッケージ支援につきましては、順調に進んでいる感じがします。デザインの投票数は 2,000 を超えている商品もあり、

小樽産品の魅力発信につながっていくことを期待しています。ただ、女性復職支援につきましては、ホームページに掲載されている企業が現在 10 社ということで、もっと増えていかないといけないと感じますし、人手不足といわれている中、福利厚生面をきちんと整えて、働き手から選ばれる企業を増やしていく必要があると感じました。委員の皆さまも、ぜひ御協力していただき、小樽は女性にやさしい街であるということを PR できるようにしていければと思います。この事業がどんどん進んでいって、発展していくことを期待しています。事業の感想や意見など、皆様に一言ずつお願いできればと思いますが、委員御意見をお願いします。

委 員 パッケージ作成支援は、会長がおっしゃるとおり結構な数を背景にデザインが絞り込まれているという状況ですので、結果や効果を楽しみにしております。女性復職支援につきましては、掲載している企業が 10 社ということで、私自身も、もう少しあっていいなという感覚をもちます。人手不足への対策としても、重要だと思います。再雇用となりますと、一度当社を辞めた方がまた復帰されるというイメージになるのですが、企業側でも、場合によっては現職で働きながらどこかの副職をもつことも許容できるような、そういう制度があれば人手不足への対応ができると思いますが、なかなか制度上、または会社のルールとしても難しい状況があらうかと思います。

会 長 ありがとうございます。たしかに、一つの仕事にこだわるよりは、ダイバーシティの時代ですので、それぞれの専門性を活かしながら、働く場が広がればいいと思います。ここに関して委員いかがですか。

委 員 女性の切り口ということで札幌の本部も、小樽も含めてまだ真剣に取り組んでいないというのが現状です。やはり女性の職場復帰、これは企業にとっては大きなプラスになると思うので、この辺を支部なり本部なりに働きかけてもいいのかなと感じております。

会 長 ありがとうございます。委員、何か御意見ございますか。

委 員 我々の企業の場合、女性は非常に多くて、その方が抜けるとそこを埋めるために皆様苦労している。それはどの企業も同じかと思います。だからそれに対してあらかじめ、帰る場があると発信する必要があります。というのは、結婚して子育てをするというのは大変なのですよ。結婚して職探しをその後どうしようかという悩みもでてくるので、子育てしながら仕事に残るという形になると非常にプラスになっているという職員もいます。また、企業全体がそれを支える意識がないと成立しませんので。特に子育て中の女性はどうしても子供が病気になりがちですし、欠席など当然出てくるわけでございます。その穴埋めを各企業ができるかどうか、それは結構大変なのですが、それをわかった上でやっていくことが長期的には会社の強化につながるのではないかと思います。それを全体に広げることが、特に小樽のような人口減の都市においては非常に重要ではないかと思います。

会 長 貴重な御意見ありがとうございます。たしかに、採用だけではなくて、現場での対応がまだまだ遅れているということもあって、なかなか進んでいないという実感がありま

すので、これは抜本的に変えていかなければいけない。それはおっしゃったとおり、受け皿を作る際の行政やまちのコミュニティだけではなくて、むしろ民間企業の意識ですね。これを抜本的に変えないといけないと思いました。委員何か御意見等ございましたか。

委 員 弊社も大半パートが女性で、なかなか苦戦しておりまして、バスを回したり、時間を短くしたり色々なことをやっておりますけれども、この復職支援を私は知らなかったので、もう少し勉強して、できることがあれば参加してみたいと思いました。

会 長 ありがとうございました。委員御意見お願いします。

委 員 パッケージ作成支援の方については、それなりの成果が出てきているのかなというような印象を受けました。女性復職支援に関しまして、当社の例で申し上げますと、再雇用の制度化というのはしているわけではないのですが、当社の場合は現場の作業的な仕事と事務と二種類あるので、どうしても作業の方は男性中心なのですが、事務関係の方は女性も従事しており、当社の例でいくと、二人ほど復職して働いてもらっている例があります。当社としては非常に助かっているのですが、資格が必要な仕事もありますので、そういう方々、ある程度子育てが落ち着いて方に復職していただいて、業務していただくというのが、この三年くらいの間で二人ほど、元々当社にいた方が復職して、今非常に活躍していただいて助かっているという例があります。それなりの重要な仕事をやっていて、子育てが大変で結婚してお子さんができて結局退職してしまうと、当然新卒の採用はしているのですが、その穴埋めはすぐにはできないというのが、当社としても非常に苦戦しているところです。できるだけ子育ての期間、産休をとっていただいたりして、できるだけ復職していただくよう、特別な制度はないのですが、個人とのヒアリングをしながらなんとか引き留めているという状況でございます。復職してきてくれる方がいらっしゃるというのは非常に助かっていると思いますので、その辺を行政的にも応援いただければ非常に助かります。

会 長 ありがとうございました。今のお二人の御意見ともに、現場ではかなり苦慮しながら対応しているということですが、その辺を、制度的に支援できればもっとやりやすくなると思います。委員、何か御意見ございますか。

委 員 雇用・労働を安定させるための女性復職支援はすごくいいと思うのですが、この10社というのが、もっともっと増えていくことは必然だと感じています。そんな中で、根本的に人口減というのを抑えていかなければいけない。抑えていくというより、人口増を目指していかなければいけないというのが根本的なところなので、そこをどうしたらいいかというところをあわせて考えていかなければならないと思っております。東川町は人口増に成功したまちの一つで、そういうところの施策も参考にするといいと思います。小樽の資源をどれだけ全国にアピールしていけるかというのが大切で、この女性復職支援というのはあくまで人口減への対策と考えています。なので、もうちょっと前向きに、人口増を目指す対策というのでも考慮していかなければならないと思っております。

会 長 ありがとうございました。根本的には、小樽は特に自然減だけではなく社会減が大きな問題になっていますし、先ほど外国人労働者の話もあったのですが、特にコロナ禍で、本州で毎日出勤していた環境から解放されたいという若い人たちはかなりいると聞いていますので、そういった人を誘致することを考えてもいいと思いました。最後に委員、御意見いただければと思います。

委 員 経営の素人でございますけれども、どうすれば雇用条件を向上できるのかという話に集約できると思いました。そのためには、小樽全体で効果を上げるという切り口があると思います。例えば、インターネット等を利用したPRを一社一社やるのではなくて、まとまって効果を上げていく。それから物流費を軽減するというようなことも、グループ化することによってできないだろうかと思えます。あるいは設備を更新する、導入するというのを、複数社まとまって経費を削減していくというのをできないものだろうかと考えたりしました。それから、経費削減ばかりではなくて価格を上げるということも大事ではないかと思ひまして、小樽全体で価格を適正な製品価格に上げていったらどうだろうかとか、そんな切り口を考えていつてはどうかと思ひました。それから女性の復職ということでは、保育制度が充実していると女性にとっては働きやすいと思ひました。なかなかいい提案はできないのですけれども、キーワードは一つ一つで頑張るのではなくてグループで効果を上げられないかということです。

会 長 ありがとうございました。小樽は歴史があつて様々な商業活動も含めて取り組んできた歴史や経験、伝統がありますので、そういったものをもちよつて、いま委員がおっしゃったとおり、ある意味異業種的に色々な知恵を出し合うというのは突破口を見つけるための方策と思ひます。

次第3 その他

会 長 全体を通して、何か御意見やなどございますか。よろしかったでしょうか。活発に御議論いただきましてありがとうございました。特になければ本日はこのあたりでお開きにしたいと思ひます。事務局から何かございますか。

事務局 <事務連絡>

次第4 閉会

会 長 それでは、以上をもちまして、第12回小樽市中小企業振興会議を終了いたします。本日はありがとうございました。